

うしまき
牛牧遺跡

所在地 名古屋市守山区小幡中三丁目地内
 調査理由 県営守山住宅建て替えに伴う事前調査
 調査期間 平成 12 年 4 月
 調査面積 200 m²
 担当者 北村和宏・池本正明・宇佐見守・鈴木達也



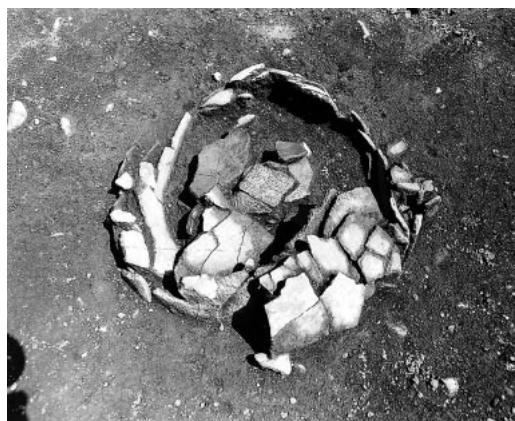
調査地点 (1/2.5 万「名古屋北部」)

調査の経過 牛牧遺跡は名古屋市守山区大字牛牧・高島町・小幡中三丁目に所在する縄文時代から戦国時代にかけての複合遺跡である。本遺跡は名古屋市の北東部、庄内川と矢田川に挟まれた小幡ヶ原と呼ばれる台地の庄内川側縁辺部に位置する。昭和 33・34 年に守山市教育委員会、昭和 36 年に名古屋市教育委員会による発掘調査が実施されている。本調査は昨年度に続き、県営守山住宅建て替えに伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施された。

調査の概要 本年度の調査区は、昨年度の調査区の北西約 30 m にあり、標高は約 21 m を測る。昨年度の調査では、縄文時代晩期の土器棺墓 41 基・住居跡 1 棟、弥生時代中期の竪穴住居 1 棟、古墳時代の竪穴状遺構 2 基、中世以降の柵列 1 列等を検出した。本年度の調査では、縄文時代晩期の土器棺墓 2 基と土坑群、弥生時代中期の竪穴状遺構 1 基と集石遺構 1 基等を検出した。遺物としては、縄文土器(後期・晩期)・石器(石鏃・磨製石斧・打製石斧・石匙・石棒)・弥生土器(中期)等が出土した。検出した遺構のうち、時期・性格が判明するものは少なく、遺物の出土も多量とは言えない状況であり、調査区が遺跡の西端部に該当するものと考えられる。(宇佐見 守)



調査区全景 (西から)



土器棺出土状況